

能楽堂でタップダンス

能楽堂でタップダンスと楽器が競演する「TAP in 能楽堂2014」が1月5日にある。タップに絡むのは三味線・尺八といった和の音から、バイオリン・サククス・ギターといった多彩な楽器。タップが奏でる細やかで力強い音と、和洋のリズムが融合する舞台だ。

主演のタップダンスアーティスト、トニー・マサ(Tony Masa)は東京都出身。ブロードウエーの舞台など、米で23年活躍した。5年前に帰国、現在は名古屋を拠点にタップを軸にした舞台を制作する。「色々な舞台に立ったが、能楽堂には威圧された。屋内に屋根があることによる響きの違い、柱や

ステップに和洋のリズム絡め

通路をどう使うか、初めての挑戦で楽しみ」と意気込みを語る。

上演は約20曲。日本舞踊家やバレエダンサーも出演。また、

名古屋市の小学生タップダンサー・鈴木真明地君(10)とかけ合う場面もある。鈴木君はタップ歴3年だが、コンテストで入賞するなど、伸び盛りの新星だ。

トニー・マサは「タップは音

の出る踊り。ダンサーでありながら、演奏家にもなれる。地元で活躍する芸術家たちとのアンサンブルを楽しんでもらえたら」と話している。

同市中区三の丸の名古屋能楽堂で午後4時開演。6千円。☎052・231・0088(能楽堂。29〜1月1日休館)。公演詳細はHP(<http://www.tap.net>)。(丹羽のさ子)



トニー・マサと鈴木真明地君(右)